

## 新型コロナウイルス感染症の影響で現状・見通しともに大幅悪化

鈴鹿商工会議所  
中小企業相談所

### (総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたびは2020年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査(2019年7月～12月期)と比較すると、現状DI値は△61.4となり43.0ポイントの悪化、また見通しDI値も△72.3ポイントと40.5ポイントの悪化を示した。

新型コロナウイルス感染症の影響で、4月中旬には政府による「緊急事態宣言」の対象区域が全国に拡大された。これを受けて三重県でも外出自粛要請や事業所への休業要請が行われ、それに伴う消費活動の冷え込みが売上の低下を招き業況が悪化したものと思われる。飲食業、サービス業では予約のキャンセルが相次ぎ来客数が減少したとの意見や、建設業においても工事の延期あるいは中止による受注工事額の減少や新規契約数の減少などマイナス意見が多く見られ、それ以外の業種でも厳しい現状が窺える結果となった。

総務省が本年8月7日に発表した家計調査によると、6月における2人以上世帯の実質消費支出は前年同月比1.2%減となり昨年10月の消費税増税後から9か月連続で減少している。消費税増税に加え新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等で消費の低迷が続く中、経済活動の再開や政府による国民1人当たり10万円の特別定額給付金を下支えとした景気の持ち直しが期待される。また、政府は中小法人・個人事業主の事業継続に向けて持続化給付金や家賃支援給付金等の支援策を講じているが、市内事業者からは客足の減少や売上の見通しが立たないことへの不安の声が多く聞かれ、新型コロナウイルス感染症による今後の影響を危惧していることから見通しDI値は▲72.3と前期(▲31.8)より大幅に悪化。現状DI値(▲61.4)と比較しても10.9ポイントの悪化を示していることから、今後の見通しは悪化するものと推察される。

(対象 1,100社 回答企業 379社、 回答率 34.5%)

### DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

### ●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は7.4%(前期19.4%:前年同期21.2%)、「やや悪い」「悪い」は68.8%(前期37.8%:前年同期35.7%)となった。

景気動向を示すDI値は、△61.4(前期△18.4:前年同期△14.5)と前期より43.0ポイント、前年同期より46.9ポイント悪化となった。

業種別では、製造業DI値△67.4(前期△32.5:前年同期△21.6)、建設業は△53.7(前期4.3:前年同期7.4)、卸売業DI値△53.9(前期△60.0:前年同期27.8)、小売業DI値△70.7(前期△48.9:前年同期△52.1)、飲食業DI値△86.6(前期△31.3:前年同期△12.5)、サービス業DI値△58.1(前期8.9:前年同期△7.5)となった。

●今後の景気見通しについて（図－２・３ 参照）

「良い」「やや良い」は、3.7%（前期 11.6%：前年同期 13.7%）、「やや悪い」「悪い」は 76.0%（前期 43.4%：前年同期 44.6%）となった。

DI 値は、△72.3（前期△31.8：前年同期△30.9）と前期より 40.5 ポイント、前年同期より 41.4 ポイントの悪化となった。

業種別では、製造業 DI 値△80.9（前期△47.6：前年同期△32.0）、建設業 DI 値△69.7（前期△10.6：前年同期 16.6）、卸売業 DI 値△61.6（前期△70.0：前年同期△33.3）、小売業 DI 値△70.8（前期△42.6：前年同期△58.3）、飲食業 DI 値△80.0（前期△12.5：前年同期△37.5）、サービス業 DI 値△73.2（前期△26.7：前年同期△28.3）となった。

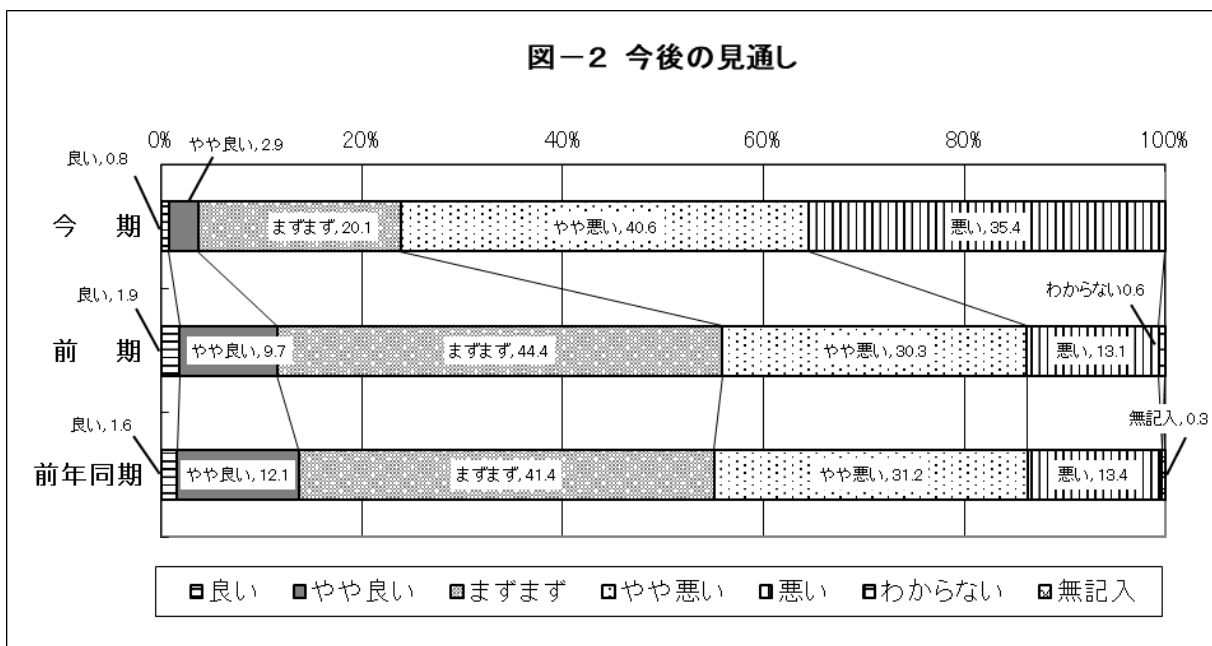
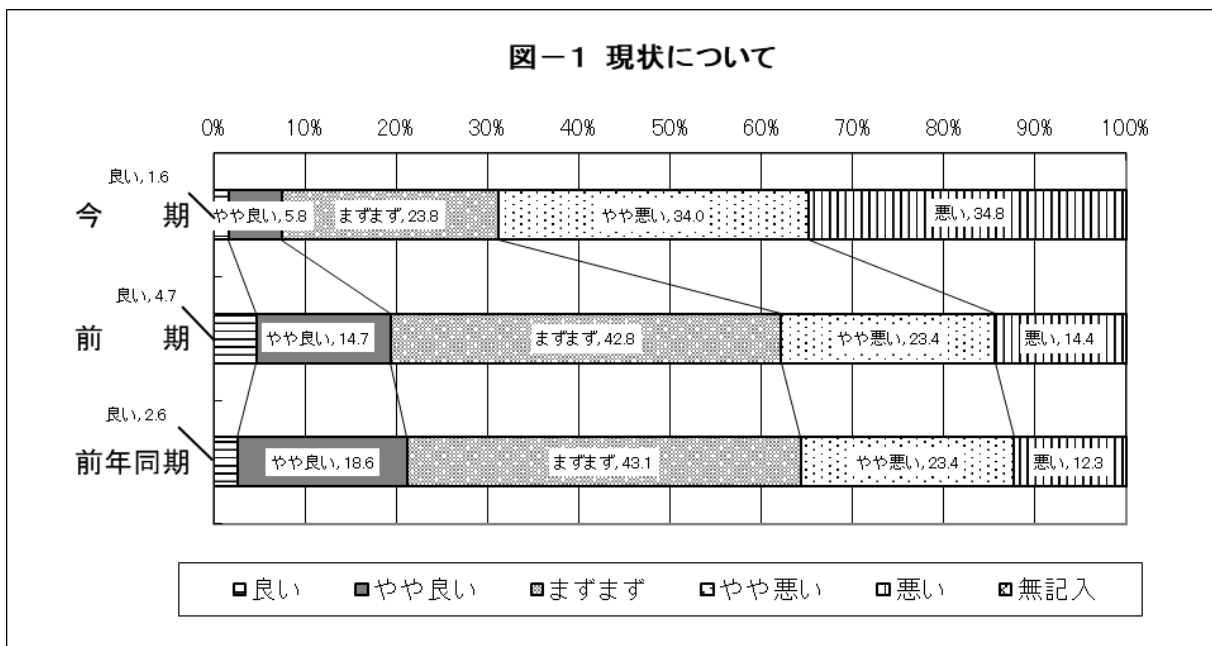
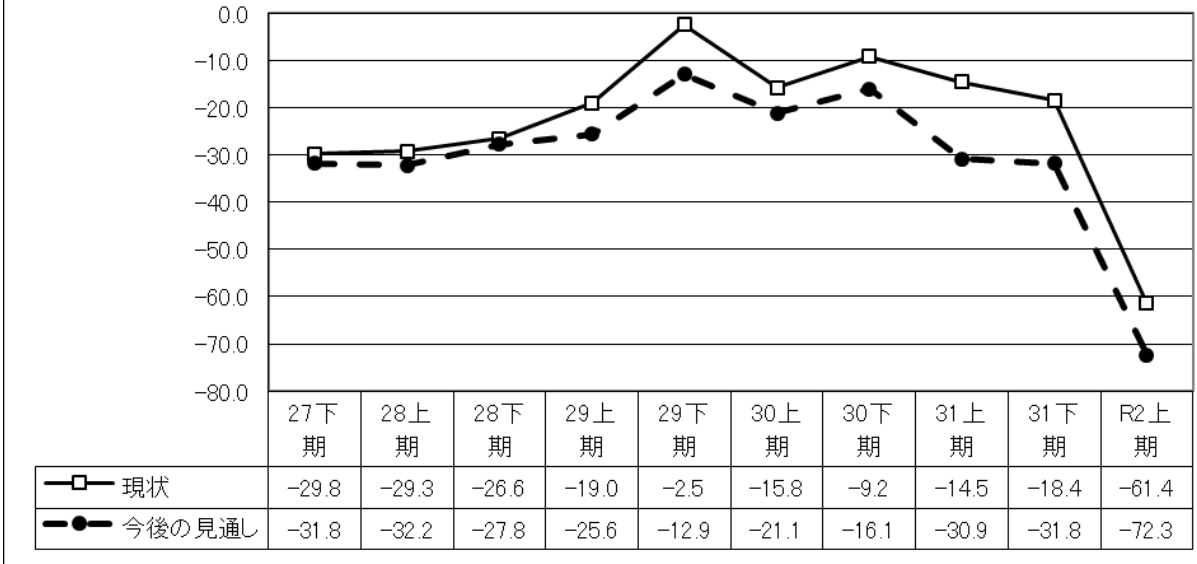


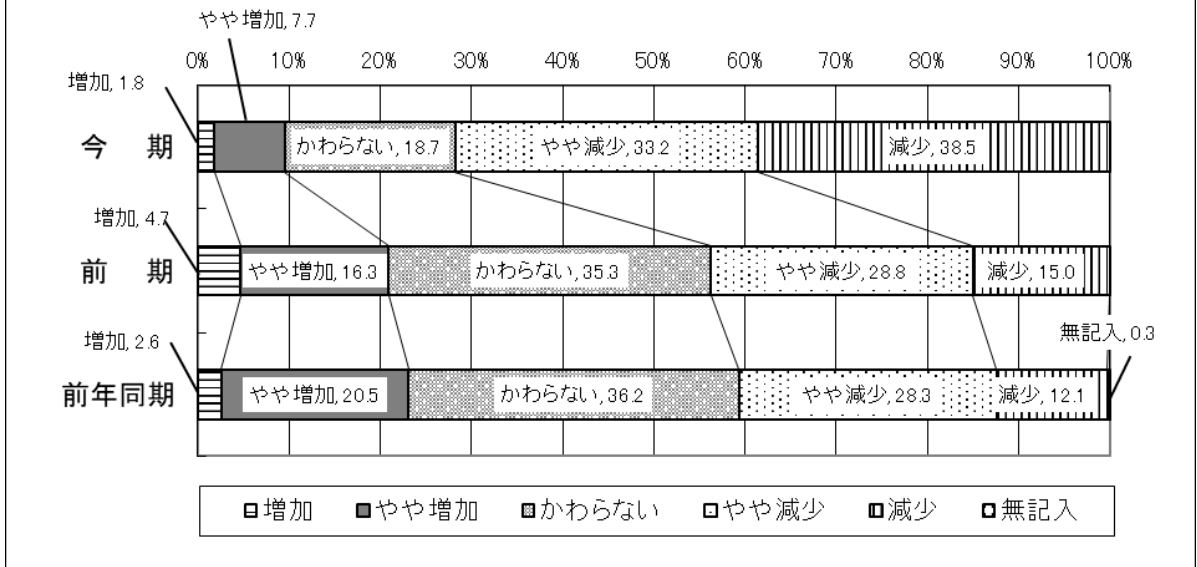
図-3 現状と今後の見通しの推移



●売上状況について (図-4 参照)

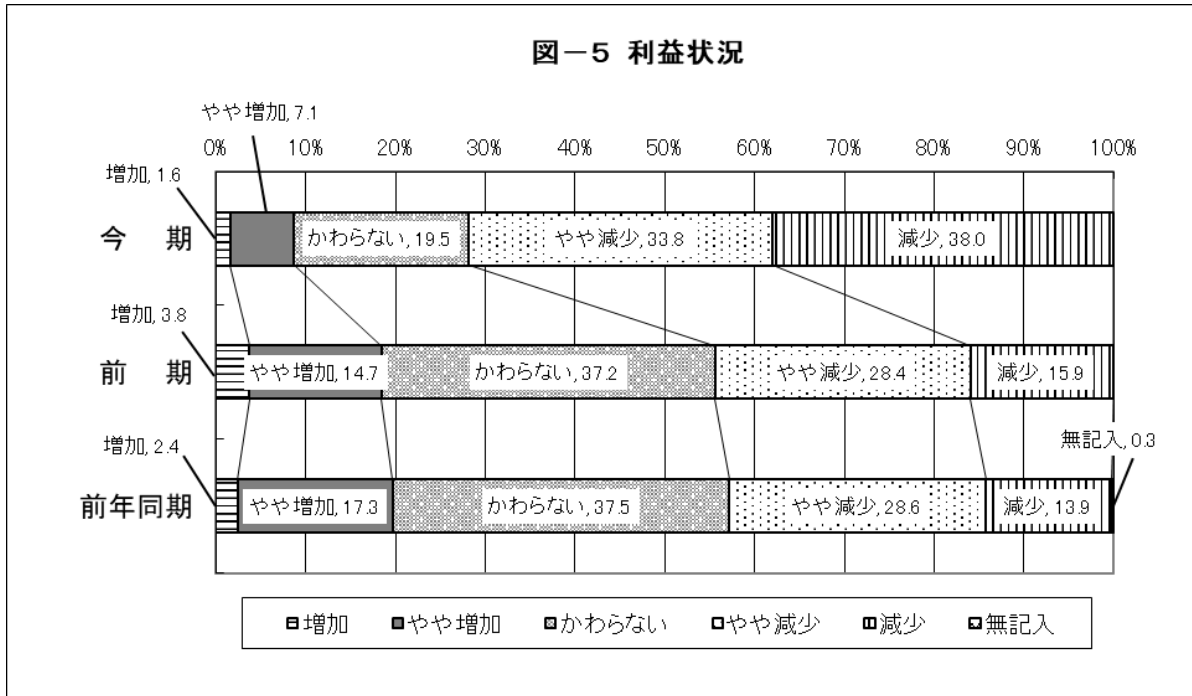
「増加」「やや増加」は9.5%（前期21.0%：前年同期23.1%）、「やや減少」「減少」は71.7%（前期43.8%：前年同期40.4%）となった。DI値は△62.2（前期△22.8：前年同期△17.3）と前期より39.4ポイント、前年同期より44.9ポイント悪化している。

図-4 売上状況



●利益状況について（図－5 参照）

「増加」「やや増加」は 8.7%（前期 18.5%：前年同期 19.7%）、「やや減少」「減少」は 71.8%（前期 44.3%：前年同期 42.5%）となった。DI 値は△63.1（前期△25.8：前年同期△22.8）と前期より 37.3 ポイント、前年同期より 40.3 ポイント悪化している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少	設備店舗の狭小老朽化	人材育成
		(69.7)	(29.2)	(19.1)
	卸売業	売上・受注の停滞減少	競争激化	人手不足
		(53.8)	(38.5)	(23.1)
	小売業	売上・受注の停滞減少	競争激化	人手不足
		(68.3)	(26.8)	(19.5)
	建設業	売上・受注の停滞減少	人手不足	人材育成
		(59.8)	(44.7)	(28.8)
飲食業	売上・受注の停滞減少	人材不足 原材料高及び不足	設備店舗の狭小老朽化 人件費以外の経費増加 税務・経理	
	(86.7)	(26.7)	(13.3)	
サービス業	売上・受注の停滞減少	設備店舗の狭小老朽化	人材育成	
	(50.7)	(23.9)	(19.4)	
交通運輸業	人材育成 立地条件の悪化			
	(100.0)	(0.0)	(0.0)	
その他	売上・受注の停滞減少	人手不足	人件費の増加 競争激化	
	(65.0)	(30.0)	(20.0)	
総合		売上・受注の停滞減少	人手不足	人材育成
		(62.3)	(26.4)	(20.1)
前年同期		売上・受注の停滞減少	人手不足	人材育成
		(37.3)	(35.7)	(29.1)

## 地場産業—自動車関連

### ●現状の業況と今後の業況見通しについて

#### a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 7.1% (前期 15.7% : 前年同期 25.0%)、「やや悪い」「悪い」は 78.6% (前期 53.0% : 前年同期 41.7%) となった。DI 値は $\Delta 71.5$  (前期 $\Delta 37.3$  : 前年同期 $\Delta 16.7$ ) と前期より 34.2 ポイント、前年同期より 54.8 ポイント悪化している。

#### b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 3.6% (前期 9.8% : 前年同期 20.9%)、「やや悪い」「悪い」は 78.6% (前期 58.8% : 前年同期 39.6%) となった。DI 値は $\Delta 75.0$  (前期 $\Delta 49.0$  : 前年同期 $\Delta 18.7$ ) と前期より 26.0 ポイント、前年同期より 56.3 ポイント悪化している。

### ●売上状況と今後の見通しについて

#### a) 売上状況について

「増加」「やや増加」3.6% (前期 15.7% : 前年同期 27.1%)、「やや減少」「減少」は 85.7% (前期 56.8% : 前年同期 37.5%) となった。DI 値は $\Delta 82.1$  (前期 $\Delta 41.1$  : 前年同期 $\Delta 10.4$ ) と前期より 41.0 ポイント、前年同期より 71.7 ポイント悪化している。

#### b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 3.6% (前期 7.8% : 前年同期 23.0%)、「やや減少」「減少」は 78.6% (前期 53.0% : 前年同期 41.7%) となった。DI 値は $\Delta 75.0$  (前期 $\Delta 45.2$  : 前年同期 $\Delta 18.7$ ) と前期と比べ 29.8 ポイント、前年同期より 56.3 ポイント悪化している。

### ●利益状況について

「増加」「やや増加」は 7.1% (前期 15.7% : 前年同期 29.2%)、「やや減少」「減少」は 67.9% (前期 58.8% : 前年同期 45.9%) となった。DI 値は $\Delta 60.8$  (前期 $\Delta 43.1$  : 前年同期 $\Delta 16.7$ ) と前期より 17.7 ポイント、前年同期より 44.1 ポイント悪化している。

### ■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 059-382-3222

FAX : 059-383-7667